

「保健体育・体育」(バレーボール・ネット型)

学習指導案

1. 日時 令和7年10月6日(月) 第6時限(13:55~14:35)
2. 場所 体育館
3. 学部・学年・組 高等部
4. 単元(題材)名 「みんなで楽しむふうせんバレーボール」

5. 単元(題材)目標

- ・それぞれの方法でボールに触れ、ボールをほかの人に繋げることができる。(知・技)
- ・仲間と協力して試合を行い、ふうせんバレーボールの楽しさや喜びを分かち合う。(知・判・表)
- ・互いの違いを受け入れながら複数人での運動の楽しさや達成感を得る。(思・主)

6. 生徒観

本学年の生徒の実態は、小学部1段階から高等部2段階まで幅広く、運動が得意な生徒や苦手な生徒がいる。運動が好きで体育の授業に積極的に参加する生徒が多い一方、集団での活動に消極的な生徒もいる。身体を動かすことが好きな生徒が多く、ボールなどの用具を扱う活動であるとなお興味をもって取り組むことのできる生徒もいる。ボールを扱う活動は、ボールを追いかけてながら空間を把握し身体を動かすなど同時に様々な力を要するため、体育の授業に積極的に参加する生徒でも、ボールの動くタイミングで手を動かしたりボールが来る軌道を予測したりすることが苦手な生徒もいる。そのため、目標を掲示したり、ボールを当てる的を用意したりするなど視覚的にわかりやすく、ボールの位置把握と打つ動作を段階的に身に付けられるよう授業をおこなう。

保健体育は、単元によりグループ分けをするものもあるが、一斉指導である保健体育の良さを活かし学年全体で楽しさを共有したり、クラス内の関係を深めたりすることを目的としたい。よって、本単元の最後には学年全体で楽しむことのできる試合形式を大会と名付けて行う。

7. 教材観

今回設定した「ふうせんバレーボール」は、動きに制限のある障がい者も高齢者も参加でき、誰もが楽しめる球技である。公式ルールでは、バドミントン用コートと同じコートやネットを使用し、障がい者3名と健常者3名の6名でコートに出場する。チーム全員がふうせんに触れてから返球するという全員参加のルールを基本に、10回以内に相手エリアに返す。直径40cmのふうせんには鈴が2個入っており、視覚に障がいのある方も参加ができる。試合時間は15分で、先に15得点したチームが勝ちとなる。このルールを障がいの種類やレベルに応じて柔軟に変更し、みんなが参加できるように工夫して試合を行う。

本題材の「みんなで楽しむふうせんバレーボール」は、公式スポーツである「ふうせんバレーボール」のチーム人数やルールを本校生徒の実態に合わせて一部変更したものである。5人1チーム(教師1名、生徒4名)で競技し、一部の生徒だけでなくチーム全員がふうせんに触れられるように上限2回の中で必ず一度はふうせんに触れてから返球するルールとする。ゲームの成立状況に合わせて、人数を増やすこともある。一緒に競技する楽

しさを味わったり、ルール理解、状況判断能力を身に付けたりすることがねらいとして取り組む。使用するふうせんは、大きくて柔らかいので、当たっても痛みを感じる事が少なく安全なため、生徒たちが積極的にふうせんに向かいやすいものである。また、バレーボールに比べてふうせんはゆっくり動くので時間的余裕がある。そのため、ゲーム時の状況判断やふうせんの位置把握が比較的しやすく、把握してから身体をコントロールするまでの時間もあるため、パスがつながりやすい。さらに、ふうせんが落ちてくるまでの時間で、生徒同士が言葉かけをしやすいという特徴もあるため、チーム全員で協力して競技することができる。

8. 指導観

保健体育科のEボール遊び/Eボールを使った運動やゲーム/E球技についての目標は以下のとおりである。

(「特別支援学校学習指導要領」より抜粋)

小学部1段階 Eボール遊び	ア. 教師と一緒に、ボールを使って楽しく体を動かすこと。 イ. ボールを使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること ウ. 簡単な合図や指示に従って、ボール遊びをしようとする事。
小学部2段階 Eボールを使った運動やゲーム	ア. 教師の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすること。 イ. ボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。 ウ. 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしようとする事。
小学部3段階 Eボールを使った運動やゲーム	ア. ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。 イ. ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。 ウ. きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や安全に気を付けたりしようとする事。
中学部1段階 E球技	ア. 球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。 イ. 球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ. 球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動すること。
中学部2段階 E球技	ア. 球技の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。 イ. 球技についての自分やチームの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 ウ. 球技に積極的に取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。
高等部1段階 E球技	ア. 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

	<p>イ. 各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを、他者に伝える力を養う。</p> <p>ウ. 各種の運動における多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自己の最善を尽くして自主的に運動をする態度を養う。また、健康・安全に留意し、健康の保持増進と回復に積極的に取り組む態度を養う。</p>
<p>高等部2段階 E球技</p>	<p>ア. 各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ. 各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>ウ. 各種の運動における多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。また、健康・安全に留意し、健康の保持増進と回復に自主的に取り組む態度を養う。</p>

発達段階によって目標は異なるが、ルールや用具の工夫をするとともに、指導するポイントを明確にすることによって、学年全員で取り組める授業づくりをめざす。中学部・高等部段階の生徒には友だちと協力したり楽しく取り組んだりするための作戦や課題、言葉かけを考え、チームのみんなに伝えられるように指導する。小学部段階の生徒には、基本的な動作や運動を促しながら、友だちと関わる機会を多く設定し、一緒に運動する楽しさを感じられるようにする。高等部3年生という強みを活かし、学校生活の集大成となるように三観点評価のうち、「ウ. 学びに向かう力、人間性等」の目標に重点をおいて指導する。

具体的な工夫の手だてとして、チームごとに色分けされた数字の記載のあるピブスを活用することで、チームメイトを意識して一緒に活動したり、ピブス番号でサーブの順番等のルールに見通しをもったりすることができるようにする。また、安全面には十分配慮し、生徒が一定の距離感を保てるように目印となるコーンを置いたり、教師が立ったりし、仲間やコート of 支柱等に接触しないように配慮する。めあての理解や学習活動への見通しにつながる教材・教具も分かりやすく、扱いやすいように視覚的にホワイトボードを用いて工夫し、生徒が意欲的、主体的に活動することができるようにする。また、言葉かけや文字等の情報も提示するようにする。達成できたときには即時的に振り返ることができるように具体的な称賛の言葉かけをするとともに、生徒の内面（感じ方）に共感できるように一人ひとりに応じた支援の仕方を工夫する。そして、授業準備から片付けまでの大まかな流れは、他の題材と可能な限り同じ流れで構造化し、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるようにする。題材の締めくくりには、ふうせんバレーボール大会を構造化し、授業の中で唯一、学年全員で行う授業である保健体育の強みを活かし、クラスの連携がより深まるようクラスごとのチーム編成で協力して競技を行う。この大会に向けて意欲をもって活動に取り組んだり、チーム活動の成果を発揮したり、友だちと一緒に達成感を味わったりすることで、集団活動の楽しさを味わい、協力する態度を育てていきたい。さらに、友だちと協力して活動する態度に加えて、休み時間や卒業後の余暇活動、身体を動かす習慣につなげていきたい。

9. 単元(題材)の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① ゲームの仕組みやルールを理解することができる。 ② 浮いているボールに触れたり打ったり、自分の狙った場所にボール投げることができる。	① 考えたことや気づいたことを他者に伝える。 ② 得点をするための方法を考え、選ぶ。	① ルールを守り、安全に取り組もうとしている。 ② 仲間と協力して練習やゲームをしようとしている。

10. 単元(題材)の指導と評価の計画(全11時間、本時は第9時)

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
1	1	・オリエンテーション ・ボール、ふうせん遊び	※全体 ・進め方やルールの説明を聞く。 ・ボールリレー ・ボール運び	・単元の見通しを持つことができるようにするために、進め方やルールの説明を行う。 ・ボールのつなぎ方の手本を見せ、言葉かけを行う。	・A① ・C①
2	2 3 4 5	・ふうせんキャッチボール ・ふうせんラリー	※グループ別 ・ふうせんゲームでふうせんに慣れる。	・頭上に的を用意し、視覚的に目標がわかりやすいゲームを行う。 ・ふうせんをつなげられるよう、打つ際の手の向きを伝える。	・A② ・B① ・C①
3	6 7 8 9 (本時)	・ふうせんバレー部分練習 ・ゲーム形式	※全体	・狙ったところにふうせんを上げることができるように言葉かけをする。 ・ラリーが続けられるコミュニケーションの例を伝え、言葉かけを行う。	・A② ・B①② ・C②
4	10 11	・学年ふうせんバレー大会	※全体 ・対戦相手を変えながら、ゲームを行う。	・試合をスムーズに行うために言葉かけを行う。 ・ゲームの勝敗を提示することで、生徒が楽しめるようにする。	・A② ・B② ・C②

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・ふうせんに触れたり、自分の狙った場所に上げたりすることができる。(知識・技能)
- ・得点をする、得点を抑えるための方法を考え、選ぶ。(思考・判断・表現)
- ・仲間と協力して練習やゲームをしようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時の評価規準

- ・ふうせんに触れたり、自分の狙った場所に上げたりすることができたか。(A②)
- ・得点をする、得点を抑えるための方法を考え、選んだか。(B②)
- ・仲間と協力して練習やゲームをしようとしたか。(C②)

(3) 本時で扱う教材・教具

コーン小 8、タイマー、マーカー4色×2、ふうせんバレーボール 4、ホワイトボード、ホワイトボードペン、ライン審判の旗 2、掲示用資料、ゼッケン 4色×1～5の番号(連続した番号)、得点板 2

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
5分 導入	○整列・点呼 ○本時の流れ 説明	※クラス列の前にコーン小を置いておく。 ネットを張っているため、コート片側に置く。 (T1) ・クラスごとに集合、整列を指示する。 ・体育委員に点呼を促す。	
30分 展開	○サーブ練習 ・アンダーハンドサーブの説明	(T1) ○ホワイトボードを用いて、サーブのポイント確認をしながら丁寧に行う。 ※オーバーハンドサーブについて、できる人はゲームで使っていいことを伝えておく。 ポイント ① ラインを踏まない ② 両手でふうせんを持ち、体の前で構える ③ 利き手の掌の向きを天井に向ける ④ ふうせんの下に③の手を動かす	・A② ・B① ・B② ・C②

	<p>・その場でサーブの動き練習</p>	<p>(T1) ・体操の時と同様に1ライン一人で前後の距離をとるように伝える。</p> <p>(T2~8) ・前後の距離が空いているか確認する。</p> <p>(T1) ・動きをはっきりと模範する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・上記の①②で構え方を確認 ・上記の③④でサーブの動き確認 ※①②③④を分けて伝える。</p> <p>・①②③④流れて練習 ※わかりやすいよう単語で伝える。</p> <p>① 「ライン 確認」 ② 「ふうせん 体の前」 ③ 「手 天井」 ④ 「手 ふうせんの下」</p> </div>	
	<p>・サーブ練習の説明(図6)</p>	<p>(T1) ・整列隊形にもどす。</p> <p>(T1) ・1クラスにふうせん1つを配布。 ・5分間のサーブ練習をする。 ・コートのを場所をコーンの色で伝える。</p>	
	<p>・コートでサーブ練習(5分)</p>	<p>(T2,3) ・コートの隅にコーン小を置き、クラスごとの場所をわかりやすくする。 ・タイマーをセットする。 ・けがの無いように列の促しを行う ・サーブができる生徒には、コートの狙った場所に打つことを促す。</p> <p>(T1~3) ・まっすぐボールが飛ばない生徒には飛ばした</p>	

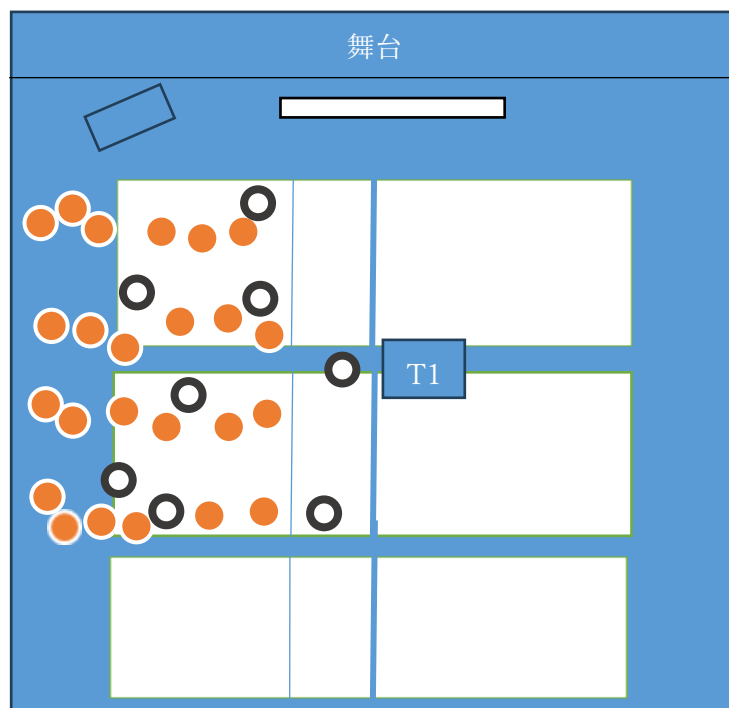
	<p>・ミニゲームのルール説明</p>	<p>い方向につま先を向けることを伝える。</p> <p>(T1) ・整列隊形に戻るように伝える。</p> <p>(T1) ミニゲームを始める前に再度ラリーがつながるポイントとルール確認を行う。</p>	
		<p>ラリーをつなげるポイント</p> <p>・ふうせんを上にあげること。</p> <p>ルール</p> <p>・チーム全員がふうせんに触れてから返球する。 ・返球するまでにふうせんに触れるのは一人2回までにする。 ・バドミントン用コートを使用する。 ・サーブはラインより後ろからラインを踏まないように行う。 ・サーブは数字の若い順に行う。</p>	
	<p>・クラス作戦会議、ラリー練習(3分)</p> <p>○ミニゲーム(4分×2ゲーム)(図7)</p> <p>① 1組対2組、2組対4組</p> <p>② 1組対4組、2組対3組</p>	<p>(T2~T8) ・得点を取る方法や得点を抑える方法を考えるように促す。意見の中からチームで頑張ることを1つ選択するように促す。</p> <p>(T2) ライン審判の役割を決める。</p> <p>(T3) 得点板の役割を決める。</p>	

5分 ま と め	○片付け	(T1) 片付けをみんなでするように促す。	
	○整理体操 ○集合、整列、健康確認	(T1) ・クラスごとに集合、整列を指示する。 ※生徒の様子を観察し、体調の変化を確認する。	
	○本時の振り返り ○次回の内容説明 ○挨拶 ・起立し、隊列を組み、指名された体育委員が終わりの挨拶をする。	・本時の振り返りを行う。 ・次回の内容を伝える。 ・各クラスの列を整え、姿勢を正すように指示し、号令をかける。 ・大きな声で挨拶をするように指示する。 (T2~T11) ・姿勢を正すよう指導する。	

(6) 教室配置等(正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す) 生徒: ● 教師: ○

図6 体育館
サーブ練習

駐輪場側



グラウンド側

図7 体育館
ミニゲーム

